

新潟県立看護大学・大学院 入学式



新潟県立看護大学開学10周年記念式典・記念講演会



## 新潟県立看護大学開学10周年を迎えて

新潟県立看護大学学長 渡邊 隆

私たちの大学は、平成14年4月に、県立看護短期大学を改組し、当初看護学部看護学科(90名)で出発しました。平成17年9月には、大学院看護学研究科(修士課程)が認可され、専門看護師(CNS)教育課程も平成20年にかん看護と地域看護の二分野で、認可されました。そしてこれまでに学部生561名、大学院生21名を送り出しています。

私たちの大学は、学部で、看護師、保健師、助産師の養成を、大学院では、より実践的な看護の研究を、そして、看護研究交流センターでは、地域社会への貢献をめざして日々努力してきました。

私たちの学部カリキュラムは、綿密にくまれており、国家試験(看護師)の合格率も過去5年間の平均で96.4%、平成21年には、100%を出しております。大学院では看護の臨床場での課題解決につながる研究に積極的に取り組んでおり、院生の大多数が看護職者の方たちです。

看護研究交流センターは、学部と大学院の教育・研究成果を、いろいろの事業を企画し社会へ発信しています。専門職に向けた新しい看護学の知を発信したり、看護職学習支援のため上越の地に暮らす人々に豊かな生涯学習の場を提供しています。また、看護の専門職がいつでもどこでも学習できるようニーズに応え、「どこでもカレッジプロジェクト」を立ち上げ、専門職向けの学習プランを展開しています。これは、子育てや様々な諸事情による第一線から離れている看護職の「学び直し」の場を提供し、再臨床現場への復帰を支援するものです。

地域社会への貢献として、地域で暮らす人々が豊かにいきいきと暮らすことを支えるために開業医、コメディカルスタッフ、看護職の

皆様からも学習支援者として参加していただき、住民を対象とした「いきいきサロン」を月1回のペースで開催し、気軽に交流できる意見交換の場や学習機会を提供しています。

地域の医療現場における専門職がもつ新しい研究課題の開発を促すための企画や医療・福祉・看護分野のグリーンツーリズムを進め、地元出身の首都圏在住者らを積極的に受け入れ、新しい医療提供の形を模索し、提供しています。センターの社会貢献により私たちの大学の存在が、地域から理解され、評価されていきます。地域から受け入れられる大学;それがこれからの大学像なのです。

また、こうした現在の大学運営の継続とともに、私たちは将来に向けて、教育・研究システムも新しい方向をめざさねばなりません。より高度の看護・教育・研究のため、新しいCNS分野のたちあげや新たな認可資格に対応できる講座の開講など、大学院の充実・改善策を実行していきます。あわせて、附属・看護研究交流センターの現在の機能をより有機化していきます。地域の看護師不足の解消を視野に入れた看護の再教育や卒業生・修了生との連携をとりながら、キャリアアップやリカレント教育の実施が出来る機能を付加していくことを試みたいと思っています。

これまでの10年間の発展に加えて、学部、大学院、センターの三部局が一体となり、「ゆうゆう・くらしづくり」の大学として、これからの将来を担って行きます。



### もくじ

- 1 開学10周年を迎えて
- 2 新入生のメッセージ

- 3 入学状況  
歓迎の言葉  
学外オリエンテーション
- 4 新教職員自己紹介

- 5 新入職員
- 6 領域別実習  
卒業研究発表会  
大学院学位論文発表会

- 6 修士課程を修了して
- 7 卒業式 学位記授与式  
卒業生は今  
リポジトリ



## 新入生の メッセージ



### 1年 笠原 なつみ

この新潟県立看護大学に入学して2週間が経とうとしています。約1ヶ月前の合格通知により、「合格できるかな。という不安もなくなり一緒に合格した友達と大喜びしました。しかし、すぐに「友達できるかな。」「勉強についていけるかな。」という思いから、新しい生活に不安を感じていました。そんな不安も今では時間と共に解消され、楽しい大学生活を送っています。

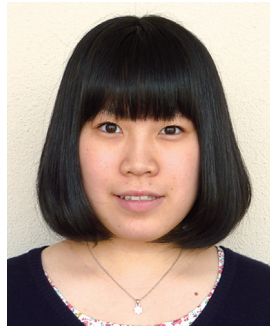
高校生活と違うところは新潟県外出身の友達が出来たということです。今まで知ることのできなかった新潟とは異なる県民性、方言、文化に驚かされ、また関心させられます。また、学習面では自分の興味のある看護の分野を学ぶことができます。初めての内容に戸惑いながらも、先生方が丁寧に教えてくださるので楽しんで授業を受けています。

### 3年編入 国本 由起

私は看護専門学校でさまざまなことを学んできました。病院実習で受け持たせていただいた患者様はすでになにかしらの疾患を抱えて病院に入院しています。実習を行っていく中で、入院をする前に疾病を予防することや、退院後も健康的に生活してもらうためには、入院生活中の関わりだけでなく、普段の生活から人々の近くにいて健康が促されるような働きかけが必要だと考えるようになりました。また実習を通して、知識がないと実践で行えないことが多いことがわかりました。退院後の生活を考えることや、入院生活の外のことを考えるためには今の私では知識が足りないと感じる場面もありました。専門学校での勉強や病院実習などの体験を通してさらに看護について深く学びたいという気持ちが私の中で強くなりました。そして、より自分の知識を深めたいと思い、県立看護大学に編入学しました。大学では、私が今まで学習してきたことを伝え、在学中の学生からも看護についての学びを伝えてもらうことで、もっと自分の看護に対する学びや看護観を深めていきたいと考えています。

大学では自分の学びたい科目を選択でき自由である反面、自分で連絡事項を確認しなければならないなど、個人の責任が重たいと感じました。大学生活では、自分は何を学びたいのかなどの明確な目標を持ち、日々を過ごすことが大切だと感じました。また積極性を持ち、大学生活の中でいろいろなことに挑戦することで、価値観を広げ社会性を身に付けていきたいです。

私は本当にこの大学に入って良かったと思っています。それは新しく出来た友達や優しい先輩、先生方のおかげです。こんな素敵な人たちがいる大学で学べることを幸せに思います。きっと辛い苦しいこともあると思いますが、共に入学した仲間と乗り越え、看護師になるという夢に向かって、充実した4年間を過ごしたいと思います。



看護はそれに携わっている限り常に勉強が必要な職業です。専門学校では決められたカリキュラムに従って授業を受けていました。しかし大学は自分で単位の選択・決定を行い、何事も主体的に行動していかなければいけない場があります。患者様により看護を提供できるよう自己の研鑽を積むことを忘れずに二年間という短い学校生活を充実させたものにしていきたいです。そして自分の生まれ育った上越で看護を学び、地域の方が健康でいられるように関わっていきたくと考えています。大学を卒業したら患者様に思いやりを持って接し、患者様がより健康の維持・増進ができるようになるために私はなにができるかを考え、患者様をサポートできる看護師を目指して努力していきたいと思っています。



### 院1年 室岡 真樹

私は、本学の前身である「看護短期大学」の3期生として、看護学科で3年間、専攻科(地域看護学)で1年間、計4年間を過ごしました。このたび、ゆかりのある本学大学院に入学でき、学ぶことができる機会を得たことをとてもありがたく思っています。

私は、新潟県内の保健所に「保健師」として勤務し、途中2度の産休・育休をはさみましたが、この4月で12年目を迎えました。

大学院進学については、すでに本学または他大学で学んでいる先輩や同僚の姿を見て「すごいな。でも私には無理。(若しくはまだまだ先...)」という思いを持っていたので、今、本学の大学院生になっているということは、1年前、いえ半年前の私には全く想像もできませんでした。

一方で、複数の勤務先で様々な業務を経験し、自分なりに知識や技術を積んできたつもりでしたが、今後、年齢・経験に応じ、求められる役割を果たしていくことに対して、漠然とした不安を抱えて

いました。そんなとき、昨年4月におとずれた「生活」「仕事」の大きな変化が、今後の職業人としての自分自身を考えるきっかけとなり、「大学院」への進学を考えるに至りました。今後の大学院生活では、専門的な知識・技術を高めるとともに、行政保健師として現場で実践を重ねながら、地域看護活動に少しでも貢献することができるよう、自身の課題とした研究等に前向きに取り組んでいきたいと思っています。

仕事・家庭(子育て)・学生という場で自分の役割を果たせるか不安はありますが、この機会に恵まれたことを幸運に思い、自分なりに頑張っていきます。





## 学外オリエンテーション

### H23学外オリエンテーションに参加して

地域生活看護学領域 地域看護学 講師 片平 伸子

新入生(学部生91名・編入生5名)と新任教員・担当教職員17名の計113名で、黒姫高原のアスティくろひめにて学外オリエンテーションを行ってきました。

出発当日、上越市は暖かく桜の花が日の光に輝く中、バスに乗り込みましたがグレンデ近くのホテル周囲にはまだ雪が多く残っていました。

1日目のレクリエーションでは、宿泊する部屋ごとに話し合っ

て分たちのチーム名をつけ、その後、参加者全員の前でチーム名とその由来、メンバーの自己紹介(出身地やニックネームなど)を発表しました。新入生・教職員、それぞれ個性が光るチーム名、自己紹介で、笑いやどよめき、拍手がたびたび起こる楽しい時間を共有できました。

2日目はチーム編成を変えて、新潟県や上越市の歴史や特徴をテーマにしたご当地クイズにチャレンジし、チームごとに競い合いました。新入生の皆さんには、これから通う地域に関心を深める機会になったのではないのでしょうか。

これから新入生の皆さんは、学部生は4年間、編入生は2年間、クラスメイトと助け合いながら看護を学んでいくことになります。この2日間が、充実した大学生活を送っていくためには欠かせない、仲間づくりの一助になったことを願っています。

### 新入生の皆様へ

3年生 石田 慎也

降り積もった雪も解け、春の陽気と共に、高田公園の桜も蕾を付け始めました。本日で入学を迎えられた新入生の皆様、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。

私たちが在校生一同は皆様のご入学されることを心よりお待ちしております。皆様の学ぶこの新潟県立看護大学は、看護の単科大学として、小規模ではありますが、アットホームな雰囲気の中で大学生活を送ることのできる環境だと思います。皆様はこれから始まる大学生活に期待と不安を募らせていることかと思ひます。そこで、少しばかりではありますが、皆様にアドバイスを差し上げたいと思います。

一つ目は、多くの人と積極的に関わりあいを持つことです。皆様はまだ入学したばかりで緊張しているかと思いますが、学内で出会うすべての人に自分から挨拶したり、声を掛けたりしてみてください。必ず返事をしてくれるでしょう。また、行事やサークル活動には積極的に参加しましょう。サークルや行事は、多くの人との関係を作ることにとても有効です。看護学を学ぶ上では、他人との関係を作ることも重要になってきます。なので、自分から積極的に参加して、その経験を自分の力としてください。

二つ目は、自分なりの目標を持って生活を送ることです。目標を

持って取り組むことは、皆様の生活にとって良い経験になると思います。皆様は、看護に携わるという目標を持って、この大学を選ばれたことと思いますが、看護学にも様々な領域があり、これから入学し、看護師の多くの役割を学んでいくと思います。学業以外にもこの4年間で自分が成長できるよう、目標をたくさん作って色々な経験をしてください。

私はこの大学で看護学を、自分なりに学習してきましたが、看護学というものはとても領域が広い学問であると実感しました。その中で、何度もつまづいてしまうことがありました。皆様にも勉強に限らず、そういった場面が訪れることがあるかと思ひます。その時は、友人、先輩、先生、職員の方々に相談してみてください。必ず皆様の力になってくれるでしょう。

最後になりますが、これからの4年間、大学生活を楽しんで送ってください。新入生の皆様、ご家族の皆様、本日は本当におめでとうございます。



## 歓迎の言葉

### ■平成23年度 1年次入学者状況

選抜区分	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
一 般 推 薦	H22.11.20	30名	48名	31名	1.55	31名	31名	3名
社会人特別選抜		若干名	7名	3名	2.33	2名	2名	1名
一般選抜(前期)	H23.2.25	50名	163名	51名	3.20	47名	30名	4名
一般選抜(後期)	H23.3.12	10名	54名	13名	4.15	11名	9名	0名
合 計		90名	272名	98名	2.30	91名	72名	8名

### ■平成23年度 3年次編入学者状況

試験種別	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
3 年 次 編 入 学	H22.9.1	10名	9名	9名	1.00	6名	2名	1名

### ■平成23年度 大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)入学者状況

試験種別	実施日	募集人数	受験者数	合格者数	合格倍率	入学者数	県内者数	男 性
一 次 募 集	H22.9.1	15名	3名	3名	1.00	2名	2名	0名
二 次 募 集	H23.2.1		7名	7名	1.00	7名	4名	0名

## 新教職員の 自己紹介



### 教授 小泉 美佐子

平成23年4月1日付で地域生活看護学領域・老年看護学の教授として着任しました小泉美佐子と申します。出身地は群馬県で、この3月まで群馬大学医学部保健学科に勤務していました。群馬県は「空っ風と力カア殿下」で有名?ですが、この時期、群馬県(上州)では、乾燥した風が吹き荒れます。先日、群馬にもどったところ、黄砂ではなく関東ローマ層の砂埃が舞って霞の様な景色でした。一方、当地にまいりましたら、雪や雨が降り、朝晩結構寒いのに少しおどろきました。しかし、高田城を囲む城下町の風情はとても気に入っています。趣味は生け花で草月流を習っていますが、新潟県はお米にお酒、そしてお魚がおいしいとのことと楽しみです。前職の大学の保健学科には、看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法専攻、作業療法専攻の4専攻、それに医学科があり、私は、チーム医療教育にも関わってきました。複数専攻を有する総合大学と新潟県立看護大学の様に単科の大学教育は、それぞれ、メリットがあると思います。単科大学のメリットは、学生さんに丁寧に関わることでしょうか、専門ゼミなどを通して、看護学、特に高齢者の看護について、学生の皆様と検討し、探求していったらと思っています。大学院では、高度実践看護職の養成教育が大学院教育の目的の一つにあり、本学では、既にかん看護と地域看護の分野で専門看護師の養成教育が行われています。これに続いて、できれば、老人看護専門看護師の養成教育を行いたいとの抱負をもっています。研究テーマあるいは関心をもっている領域は、高齢者の精神保健、認知症高齢者とその家族支援、排尿障害のケア、高齢者のエンド・オブ・ライフケア(終末期ケア)などです。どうぞ、よろしくお願いいたします。



### 准教授 田口 玲子

はじめまして。4月から精神看護学の教員としてお世話になっています。新潟生まれの新潟育ちですが、高校卒業後に住んだ場所は、仕事や学業の都合で、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫等、いろいろです。最近の4年あまりを過ごした関西地方には、京都や奈良、それに神戸など、自宅から気軽に出かけられる距離に魅力のある観光スポットが数多くあったので、私は暇さえあれば、そうした場所に「散歩」に出かけていました。大阪も、東日本に住む者にとってはお笑いのイメージのみが強いかも知れませんが、中心街にはしっかりと風情のある落ち着いたエリアが多く、古い建物を眺めるのが好きな私にとっては、絶好の散歩コースでした。

さて、そんな私ですが、これからは故郷で看護教育にたずさわり、また、看護職の仲間と地域での活動の場を広げていきたいと強く希望して、再び新潟に帰ってきました。今年は桜の開花が遅れているのか、これを書いている時点で、まだ満開の桜をめぐる機会には恵まれていませんが、日に日に春らしさを増してくる高田公園の中を毎日とおって通勤できるのは、それだけでしあわせな気分です。

まだまだ大学内のいろいろなことに不慣れでとまどうことが多く、学生の皆さんの顔どころか、同僚である教員の皆さんの顔も覚えられないという情けない状態ですが、周りの人々に助けていただきながら、少しずつ役割を果たしていけるように努力したいと思っています。大学の授業では、精神看護の楽しさを伝えていけたらと思います。地域では、看護専門職者を心理的に支援する活動を、仲間と一緒に始めたところですが、もっとその活動を広げていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



### 准教授 城戸 裕子

この度、4月1日付で地域生活看護学領域 老年看護学の教員に任じられ過日着任いたしました。

前任校では社会福祉学にて、社会福祉士養成と介護福祉士養成課程を担当しており、高齢者福祉分野を中心に講義並びに演習、実習等を担当させていただいておりました。

社会福祉学から看護学へ進んだことには、自身の高齢者看護における実践者を育てる教育への想いがあります。その想いとは福祉と医療は密接な関係があり、多職種協働の中で連携を図りながら支援が進められることが求められ、福祉と医療双方の視点が必要であるというものです。その実践の為には社会福祉学の視点を学ぶこと、それらを看護学で活かすことで要介護者ならびに介護者が望む生活の実現が可能になるというものです。

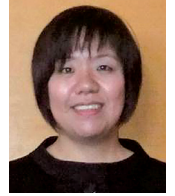
ようやく歩を進められるという気持ちですが、この始まりが本学から始まるということは自身に課せられた何かのミッションだと思っています。また、前任の地は風林火山の武田信玄公の縁の地でありました。上越という上杉謙信公の縁の地に着任させていただきましたのも何か不思議な縁だと感じています。

着任に伴う転居に際し、荷解きをしながら以前、友人に「毎年、年賀状の住所が違うよね。」と笑いながら言われた言葉をふと思い出しました。果たして転居をどれく

らい繰り返しているのかと数えてみたところ、この数年間ばかりの間に10回転居をしていることが判明し、愕然としました。決して転居が趣味ではなく、必要に迫られての選択ではありましたが、この転居のおかげで、荷造りと荷解きの腕が上がっていること、潔く物を処分する決断力がついたことを実感しています。

上越では遠いところから転居してきた者のことを「たびのしょ(旅の人)」というそうですが、転居を繰り返している私は常に旅人のような気がしてなりません。しかし、旅する毎に得るものは多く、私のかけがえのない財産です。

これから、どうぞよろしくお願いいたします。



### 講師 内宮 律代

こんにちは。4月1日付けで赴任いたしました「内外の『内』、お宮の『宮』、法律の『律』、君が代の『代』と書きまして『うちみやりつよ』」と申します。よく間違われますが、宮内(みやうち)ではありませんし、律子(りつこ)でもありません。よろしくお願いいたします。

新潟といえば、♪雪の新潟吹雪に暮れてヨ 佐渡は寝たかや 灯は見えぬ…♪と、まず頭に浮かぶのが「佐渡おけさ」。そして「国境の長いトンネルを抜けるとそこは雪国だった」で始まる川端康成の小説「雪国」。私の出身は九州の鹿児島です。ですので、豪雪地帯での生活には不安があります。しかし、新潟県人は「嘘や諦めは許さない。一度決めたことにはコツコツと粘り強く取り組む。そして、新潟県人との相性は似たもの同士が好相性。」と伺っています。また、私の周囲の方々がとても親切なので安心しています。

こちらに赴任してみると、食文化の違いも実感しました。例えば、九州では「お酒＝焼酎」ですが、こちらでは「日本酒」。早速、いただきましたが、お酒を全くたしなまない私が、おかわりしたくらい大変美味しく「実は私は飲んべえ?」と錯覚しました(2杯飲んだら…。ご想像にお任せします。)。日本海で獲れた魚も新鮮で、鰯汁も美味しかったです。

日本三大夜桜の名所、高田公園も散歩もし、遠方に見える上越一の名山 妙高山の美しさに一目ぼれしています。住めば都とは良く言ったもの。赴任当初の心配は他所に、今では新潟生活をEnjoyしております。

学部では母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習を担当し、大学院では母子看護学方法論、周産期母子看護援助展開論、母子看護学特別演習を一部担当させていただきます。

縁を大切に、人の命の尊さ、看護の楽しさを分かち合いながら、学生さん達と一緒に研鑽に励みます。どうかよろしくお願いいたします。



### 助教 井上 智代

はじめまして。4月から地域生活看護学領域地域看護学の助教として赴任いたしました。

新潟市内で30年近く生活し、現在は長岡市在住ということもあり、主に下越・中越地方を活動の拠点としておりました。今回初めての上越での仕事となります。毎日片道1時間半の車の運転にも少し慣れ、天候に恵まれた際には日本海の美しい夕日に感動しながらのドライブを楽しんでいます。

これまでの助産師、看護師、そして企業や学校、行政等において保健師として勤務し、県内の専門学校で地域看護学の教員として看護師・保健師教育に携わってまいりました。

その間に会った数多くの諸先輩方からの教えや自らの経験から大切にしていることとして、「生活する場に向き、住民の中に入り込んで活動することで、住民の思いや暮らし方を理解し、住民とともに健康づくりやまちづくりを進めていく」ということです。これまでの研究テーマにおいても、博士前期課程では、地域で生活する高齢者の高次生活機能の維持・向上に影響する日常的な外出内容についての研究に取り組んでまいりました。また、市町村保健福祉事業の効果評価の場においても住民とともに研究者として参加させていただいておりました。

今後も、人々の主体的な生活の営みを重視した個人々への支援およびコミュニティを重視した集団への支援のありかた、そして地域で生活する人々のいのちや健康を守るために必要とされる社会資源の開発やシステムの構築のありかた等について教育・研究者としての立場から造詣を深めていきたいと考えております。

最後に私自身、大学での教育・研究活動は初めてであり、教職員の皆様よりご指導をいただき、学生の皆さんとの関わりの中で学び・気づきを大切にしながら成長していきたいと思っています。また、上越という地域についても理解を深め、様々な場に向き楽しみを広げていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。





## 助 教 加賀美 亜矢子

皆さん、はじめまして。4月から地域生活看護学領域(老年看護学)の教員として赴任しました。千葉生まれの広島育ち、大学時代を北海道(札幌)で過ごし、3月まで広島市内の介護老人保健施設に勤務していました。一見新潟には縁がなく、不安を感じていましたが、大学への勤務が決まってから、曾祖母が新潟出身であったと聴き、運命的な想いと親しみが湧いているところです。初めて上越へ来た際には雪はなく、遠くに青々と聳える山並がとても美しく、印象に残っていましたが、雪化粧した雄大な景観もまるで額に入っている絵画のように美しく、心が洗われるような思いです。季節ごとに自然の厳しさもあると伺っていますが、少しずつ上越の気候風土に慣れながら、四季折々を楽しむ満喫していくことができたらと思っています。

話は変わりますが、これまで臨床では高齢者看護にかかわる実践を重ね、慢性期・急性期病院、地域保健、介護老人保健施設と異なるフィールドから生活基盤の異なる高齢者の治療援助、予防活動、リハビリテーション、療養支援などを経験してきました。そして昨年は認知症看護認定看護師教育課程に在学していました。近年は高齢化とともに増加しつつある認知症者への看護・ケアという専門を極め、追及していくことの重要性を感じていますが、老年看護全般としては疾患治療看護だけではなく、QOLとして生命・暮らし・人生など大きく視野を広げた考え方で人を捉えることの出来る力を養うこと、そしてなにより人間としての尊厳を尊重し、より健やかな老いのプロセスを支えることの出来る力が大切であると考えています。

教育職は初めてですが、研究室の先生方をはじめ他領域の先生方には、多忙な中でも懇切丁寧にご指導いただき大変感謝しております。授業・実習・学校行事など様々な体験の中から一步一步学生の皆さんとともに学び、成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 助 教 渡 邊 千 春

はじめまして。4月より臨床看護学領域の助教としてお世話になっています。私は県内の小千谷市で生まれ、主に外科系の病棟で勤務した後、新潟市内の専門学校で看護教員として8年間勤務していました。その中で、もう少し深く学びたいと考えようになり、こちらの大学院の「看護学の分野を専攻しました。在学時よりお世話になった先生も多く、未だに自分が学生なのか教員なのか不思議な気持ちの中で日々を過ごしています。それと共に、改めて先生方の温かさに触れ、新たな気持ちで頑張ろうと思っています。また、私は身体を動かすことが好きで、昨年初めて尾瀬にキャンプをして以来、トレッキングやキャンプに興味を持ちました。上越は自然も豊富で、四季や自然に触れながら、日々過ごしていきたいと思っています。

さて私は、今まで主に成人看護学の急性期・周手術期の看護について講義・実習を担当してきました。これらの内容は、どうしても難しい、関わり方が分からない、怖いという気持ちが強くなりやすいと思います。だからこそ看護師が関わることの意味や喜びを伝えられたらという思いで、関わってきました。今後も、学生の皆さんの学びが深められるよう、課題を持ち続けて頑張っていきたいと考えております。

最後になりましたが、東日本大震災という悲惨な状況の中、皆さんも人間の生きる力の強さやほかなさを実感していることと思います。看護は、その根本の部分に触れることのできる貴重な仕事だと思っています。大学という新しい場所で不安や戸惑いはありますが、先生方のご指導を頂き、学生の皆さんと学びあいながら、成長していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 助 教 福 間 睦 子

はじめまして。4月から母性看護学の助教として赴任してまいりました。兵庫県生まれ、東京育ちですが、助産師として勤務した石川にすっかり馴染み、東京弁を忘れてしまっている今日この頃です。新潟は初めての土地ですが、「住めば都」をモットーに新潟を多く楽しむことができればと思います。

看護師としての経歴は、脳外科・循環器内科、手術部を経て専門看護分野として助産師の免許を得、産婦人科に勤務してきました。そして大学院進学中は中央放射線部・救急医療センターに勤務しました。どの部署に勤務していても感じることは当たり前のことかもしれませんが、「私は看護師である」ということです。一看護師としての力はとても小さなものかもしれませんが。経験も様々です。しかし、一看護師が集まってチームとなりますし、一看護師が役割を自覚しそれを果たそうとすること

でチームとして機能することにもなりますし、大きな力となると感じています。ですので、今回母性看護学の一員として、看護大学の教職員の一員として皆様のご指導を受けながら、学生の皆さんから大きな刺激を受けながら、一つ一つ大切に取り組んでいくことができればと思っています。

また、学生時代に仲間とともに勉学に励んだこと、多くの看護師・医師・コメディカルスタッフ・患者とその家族の方々とのよい出会いがあったこと、多くの友人に恵まれたことは、私自身大きな財産となっています。今回新潟でどのような出会いがあるのか期待を持って過ごしていますが、ここでの出会いを大切にによりよい時間を過ごすことができればうれしく思います。趣味はテニス・水泳・ピアノ・ゴルフなどありますが、下手の横好きといった所です。同じ趣味をお持ちの方、またはこんな趣味もありますよといった方、是非お声かけいただき、楽しい時間を共有することができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



## 助 手 西 山 佳 良

はじめまして。4月から、小児看護学の助手としてお世話になっています。私は新潟県の出身ですが、上越にはあまり馴染みがありませんでした。通勤で大学に向かっていると、青い海が目の前に広がり、山々の自然に癒されます。

今まで、混合病棟・小児科・NICUと臨床経験のほとんどが子どもにかかわる看護でした。子供が好きだから子供と関われる小児看護がしたいという学生時代の思いから始まり、卒業後、小児科の先生の「小児科はあきらめない科だから、小児科を選んだ」という言葉に、私の小児看護への思いも深くなりました。病気を抱えながらも成長・発達していく子供たち、自分も病気と闘いながら他の子供達を思いやる優しさを持っていた子、不安を抱えながらも力強くたくましくも見えた家族の方、つらい状況におられる方もいらっやいました。たくさんの方と出会い、看護の難しさや、信頼関係を築いていくことの難しさを感じるとともに、勇気づけられ温かな思いもいただきました。短い期間でしたが、地域の母子保健では支援の実際を知り、様々な時期と場面で必要とされる援助の形も変わり、引き継がれていることに改めて気づかされました。様々な視点で多くの職種が連携し、継続的な支援が必要とされていました。子どもたち、家族の方のおかれている状況に理解を深め、思いに寄り添った温かな看護がしたい、豊かな心で感じられるようでありたい、そのために、もっと視野を広げ学びたいと思いました。

教育の場で働くのは初めてです。緊張と不安もあります。が、学生の皆さんに出会えること、たくさんの情報に触れ、学べることを、嬉しく思っています。これから、先生方にご指導いただきながら、学び成長していきたいと思っています。そして、学生の皆さんの思いを、少しでもお手伝いできるように、一つ一つ大切に努力していきたいと思っています。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



## 助 手 星 揚 子

はじめまして。4月から臨床看護学領域成人看護学の助手としてお世話になることになりました。

私は上越出身で上越の空気や自然、上越の人達の人柄が大好きです。大学卒業後はしばらく離れていましたが、上越が恋しくなり戻ってきました。また、私は本学の卒業生で10年前に1期生として入学しました。10周年を迎える記念の年に教員という形でこの学び舎に戻って来れたことをとても光栄に思っています。

実は「継燈式」という名前も私たち実行委員で決めたものです。戴帽式に代わる行事を考えてほしいという要望があり、いつの間にか実行委員になっていました。1期生だったので全てが初めてで大変なこともありましたが、みんなで協力して作り上げていくことの喜びも同時に知ることができました。そして今も「継燈式」が引き継がれていることを大変嬉しく思います。

大学卒業後は県内の大学病院で働いていました。臨床は辛くて大変な時もありましたが、それ以上に看護の楽しさを教えてもらいました。皆さんには臨床で得た知識や技術、患者さんを通して学んだことを少しでも還元していけたらと思っています。

教員として働くのは初めてで、至らない点も多いと思いますが先生方や生徒達に刺激を受けながら生徒と共に成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 新 入 職 員 (敬称略)

氏 名	諏 訪 部 恭 子	関 崎 康 弘	永 井 誉 雄
出身地	長岡市	長岡市	上越市
前 職	柏崎地域振興局健康福祉部副部長	消費生活センター	農林水産部経営普及課
趣 味	トレッキング	サッカー日本代表戦の観戦・愛犬(ナルト)との散歩	音楽鑑賞・日曜大工
抱 負	初めての職場です。新鮮な気持ちで職務に励みたいと思います。よろしくお願いいたします。	上越地域での勤務は初めてですので、地域のいろいろな名所等を回ってみたいと思います。	目先の業務にとらわれすぎないよう、全体の目的達成のために、何をしたら良いのかを見つめながら頑張りたいと思います。

## 実習

### 領域別実習を終えて

4年 小坂 彩花



3週間×6クールという18週間の領域別実習が2月に終わりました。最初の1週間が終わったとき、これが残り17週間も続くのかとぞっとしたのが嘘のように早く過ぎました。

悩んだり、泣いたり、笑ったり、とにかくいろんな表情をした18週間でした。私は、この領域別実習でたくさんのことを学ぶことができました。特に印象に残っているのは「疾患をみるのではなく、人を見る」ということです。

実習が始まって、最初のころは、患者さんの疾患がどのような経緯で発生するものなのか、どのような治療法があるのか…など疾患にばかり目を向けていたように思います。もちろん疾患についての知識はなければならないもので、さらに深めなければいけないものだ

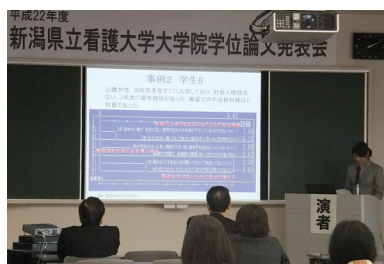
と思います。しかし、疾患にばかり目を向けていると、患者さんについて知ることができません。看護師が患者さんに関わる上で、患者さんは今までどのような生活を送っていたのか、今後どのような生活を送ることを望んでいるのか、そのためにはどうしたらよいかを一緒に考えることが大切なのだと思います。また、それが看護師の役割であり、患者さんと一番関わることができる看護師の特権なのではないかと思うようになりました。それぞれの患者さんに合った看護を展開するためには、まず患者さんを見て、その人がどのような人なのかを知ることが大切なのだと学ぶことができました。領域別実習で学んだことを活かし、これから先も患者さんと関わっていきたいと思います。

患者さんに何かしてあげたいと思えば思うほど、患者さんからたくさんのことを気づかせてもらえるという不思議な18週間でした。実習を受け入れてくれた患者さん、優しく的確に指導してくれた指導者さん、厳しき的確に指導してくれた先生方、一緒に悩み、一緒に息抜きをしてくれた友達、体調を心配して何度も連絡くれた家族、私を支えてくれた皆さんに感謝して終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

2010年12月21日にこの3月に卒業した6期生が取り組んだ卒業研究の発表会が行われました。研究発表に対して、活発な質疑応答が行われました。



### 卒業研究発表会



### 発表された論文

高齢脳血管疾患患者の退院支援に関する研究  
外来化学療法患者の有害事象へのセルフマネジメントに関する研究  
高齢患者の家族が入院初期から描いていく退院後の介護状態  
臨地実習で学習に困難を感じた時の学生と指導に困難を感じる教師の態度構造  
積雪地域に暮らす高齢パーキンソン病患者の生活機能にみられる季節差

### 大学院 学位論文発表会

9月28日及び3月8日に学位論文発表会が行われました。発表された研究に対して、活発な質疑応答が行われました。

### 修士課程を修了して

那須 美奈子

3年前、期待とともに大きな不安を抱え入学式に出席したことが、まるで昨日のことのように思います。入学後は授業の準備に追われる毎日でした。大学院の授業は、ただ聞いているだけではなくテーマを基に調べた内容をプレゼンテーションしたり、ディスカッションしたりするので、事前の準備が不可欠です。人に伝わりやすいプレゼンテーションは難しく、自分で課題を見つけ、学習するというスタイルに慣れていないこともあり場違いなところに来てしまったと後悔したこともありました。また、自分の今までの学習不足を痛感しました。

私は、長岡市内の看護学校に勤務しながらの学生生活であり、職場との調整や働きながら学習することの難しさを実感しました。しかし、夜勤明けで授業に来る学生や、テーマについて詳しく調べ独自の見解を述べる学生など、さまざまな人たちに刺激を受け何とか終了できました。この経験から、何のために学習するのかということを

再度考え直すことができたと思います。また、このような経験を共にした同期との出会いは、一生の宝になると確信しています。

3年目の春に修士論文計画書を提出しましたが、テーマをなかなか絞れず苦労しました。指導教授のアドバイスを受け何とかテーマを決定できましたが、その後も沢山の試練が待っていました。本格的な研究は初めてであり、1つ1つ指導教授の助言を受けながら研究に必要なプロセスを踏み、修士論文をまとめました。思い出深い出来事は、学会発表を経験し、日本応用心理学会で大会発表賞を頂けたことです。私一人ではできなかったことだと思い、背中を押して下さった教授に感謝しています。

本学では沢山の学びを得ることができたと思います。しかし今は、もっとしっかり調べ、学習をしておけばよかったという気持ちで一杯です。この気持ちを忘れず、今後は本学での学びを生かせるように頑張っていきたいと思います。







3月18日学部・大学院の卒業式  
学位記授与式が行われました。

学部を卒業した92名、修士課程の修了生  
が卒業証書と学位記を受取りました。



#### ■学部6期生の卒後の進路

卒業生数		92名
看護師としての就職	県内	49
	県外	24
保健師としての就職	県内	6
	県外	4
助産師としての就職	県内	2
	県外	1
進学		4
その他		2

卒業式  
学位記授与式

## 卒業生は今

### 近況報告

2期生 黒田 美樹

私は、新潟労災病院の脳神経外科病棟に勤務し4年が経とうとしています。私の所属する脳神経外科病棟は、突然の発症で入院し後遺症や病状の悪化の危険性が隣り合わせの場合が多いです。患者様やご家族にとっては悲しみやつらさを伴い、その姿を何度も見してきました。また疾患により今後の生活の変容を求められ、患者様やご家族と悩み、日々のケアの中で自分自身も葛藤する毎日を送っています。

しかし、その中でそれを乗り越え徐々に回復していく姿や寝たきりの状態から時間をかけて、歩ける、ご飯を食べる、話をするなど私たちが普段意識せずしていることができたときの姿を目にし、新たな喜びを感じることもできます。

大学時代の実習では慢性期病棟の経験しかなく、配属先が急性期病棟であったため就職した当時は病棟自体がめまぐるしく動き、忙しい環境に圧倒されていました。毎日が緊張と不安の中で覚えることの多さと病棟の動きについていくことに必死であつたという間に



過ぎたことを思い出します。

今年度プリセプターとして後輩指導にあたり、人に伝えていくことの難しさを知り、自分自身で苦手としていること、見えていなかった弱い部分を知るきっかけとなりました。そして私自身に指導していただいている先輩方に感謝する気持ちでいっぱいとなりました。

5年目になるにあたり、日々変化していく環境に目を向け毎日の看護ケアに反映させていくことを目標として、自分自身の進みたい方向を見つけていこうと考えています。

## 新潟県立看護大学リポジトリ「にこナース」の開設

新潟県立看護大学 教授 関谷 伸一

リポジトリとは英語でrepositoryと綴り、その意味は「容器、貯蔵所、倉庫、(知識などの)宝庫、…」とあります(三省堂コンサイス英和辞典より)。

つまり、研究論文などを電子化して蓄えておくシステムのことです。ただ蓄えておくだけでは宝の持ち腐れですので、電子化した論文や文書をインターネット上に公開し、いつでも、誰でも、どこからでも閲覧することができるようにしておきます(オープンアクセス)。このようにして大学が蓄えた情報を公開し、大学の社会に対する説明責任を果たそうというわけです。

本学では一昨年からこのようなリポジトリを構築しようと研修会を開いたり、研究班を立ち上げたりしましたが、最終的には図書館と情報化推進本部が中心になって作業を進めてきました。その結果「にこナース」というかわいい愛称のもとに、平成22年12月1日から運用開始となりました。



まずは本学図書館のホームページを開き、「にこナース」と書かれたところをクリックしてみてください。瞬時に「新潟県立看護大学リポジトリ」というページが開き、そこから本学が今まで印刷物として学外に配布してきた様々な報告書、文書、研究論文を見ることができます。

平成23年2月2日には、新潟大学と上越教育大学の関係者をお招きし、リポジトリの活用について研修会を開催しました(写真)。ここではリポジトリの教育への活用も紹介され、本学でも看護教育への応用が期待されます。

いずれにしても、このようなリポジトリが世界のあらゆる機関で開設されたならば、居ながらにして古今東西のあらゆる文書(文献)を閲覧できることになります。その一方で、他人の情報を得ることばかりに専念するのではなく、自らも発信することによって社会全体の向上が望めます。他大学のリポジトリを利用させてもらい、オープンアクセスの恩恵を受けている者としても、「にこナース」が逆に情報を提供する側としてわずかでも貢献できるならば幸いと思います。(リポジトリ構築の試み研究班代表 関谷伸一)

# 入試関連情報

## 1.平成24年度 入学試験の概要

### ■募集人員

入学定員	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推 薦	社会人	前 期	後 期
90名	30名	若干名	50名	10名

※一般選抜入試前期試験の募集人員は、社会人特別選抜の若干名を含む。

## 2.平成24年度 3年次編入学試験の概要

募集人員	10 名			
出願資格	次の各号のすべてに該当する者 ①看護系短期大学を卒業した者(平成24年3月卒業見込みの者を含む)、または、学校教育法第132条の規定に基づき看護系専門学校(専修学校専門課程)を卒業した者(平成24年3月卒業見込みの者を含む)。ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する(見込み)者に限る。 ②看護師免許取得者(平成24年取得見込みの者を含む)			
試験科目	看護学・英語・面接		試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	平成23年7月25日～8月2日			
試験期日	平成23年8月31日		合格発表	平成23年9月7日

### ■試験科目等

	特別選抜入試		一般選抜入試	
	推 薦 (高等学校推薦)	社会人 (自己推薦)	前 期	後 期
個別試験科目	小論文(英文資料の読解を含む)、個人面接		個人面接	小論文、個人面接
試験会場	新 潟 県 立 看 護 大 学			
出願期間	23年11月1日～11月10日		24年1月23日～2月1日	
試験期日	23年11月19日		24年2月25日	24年3月12日
合格発表	23年11月28日		24年3月5日	24年3月20日

※一般選抜入試を出願する方は、平成24年度大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目(5教科6科目)を受験する必要があります。詳しくは教務学生課教務係(電話025-526-2811)までお問い合わせ下さい。

## 3.平成24年度 大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)入学試験の概要

募集人員	15 名			
出願資格	次の各号のいずれかに該当する者 ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者および平成24年3月卒業見込みの者 ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者および平成24年3月31日までに修了見込みの者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および平成24年3月31日までに修了見込みの者 ④専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成24年3月31日までに修了見込みの者 ⑤大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めらる文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号) ⑥本大学院において個別の審査により大学を卒業した者と同等以上の学力が認められた者で満22歳に達した者(※⑥の資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要です。)			
事前面談	出願する者は、全員、出願前に入学後の研究等について、教員と面談することが必要です。			
事前面談期間	平成23年6月13日～7月15日			
試験科目	英語・看護専門科目・面接		試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	平成23年7月25日～8月5日			
試験期日	平成23年8月31日		合格発表	平成23年9月7日

## 4.オープンキャンパス

新潟県立看護大学の概要や来年度の入試概要を、受験希望の方や、看護系へ進学を考えている皆さんに知っていただくため、オープンキャンパスを開催します。お問い合わせのうえ、ぜひご参加下さい。

- 期 日 第1回:平成23年8月3日(水) 第2回:平成23年8月23日(火) 各回とも12時から受付を開始し、時間は13:00～16:00の予定です。
- 内 容 大学の概要、平成24年度入試日程のほか、学長室訪問、施設案内、体験学習、個別相談を行う予定です。
- 申 込 方 法 詳しくは大学ホームページをご覧ください。
- 問 合 せ 教務学生課教務係 電話025-526-2811、FAX025-526-2815、E-mail:kyoumu@niigata-cn.ac.jp

## ■平成23年度科学研究費採択課題一覧

### 1 新規採択課題

研究代表者	課 題 (期間)	研究種目
境 原 三 津 夫	触法精神障害者の社会復帰支援システムの構築(2011～2013年度)	基 盤 研 究 C
水 澤 久 恵	看護専門職の「倫理的価値」概念の創出と、それに基づく倫理的評価尺度の開発(2011～2013年度)	基 盤 研 究 C
飯 吉 令 枝	豪雪地域の介護予防リスクの高い高齢者を早期発見する近隣見守りチェックリストの開発(2011～2013年度)	基 盤 研 究 C
高 柳 智 子	看護師の臨床判断を基盤とした脳卒中患者の移乗時見守り解除のアセスメント指標の開発(2011～2013年度)	基 盤 研 究 C
櫻 井 信 人	自死遺族支援グループを運営・継続するために必要な要素(2011～2013年度)	若 手 研 究 B
片 平 伸 子	小規模多機能型居宅介護における効果的な看護提供(2011～2013年度)	若 手 研 究 B

### 2 継続課題

研究代表者	課 題 (期間)	研究種目
渡 辺 弘 之	ベトナムのハンセン病(元)患者および家族の状況分析と社会復帰支援に関する研究(2008～2011年度)	基 盤 研 究 B
徐 淑 子	個人・行動・環境・健康リスクをコア概念とした薬物・アルコール依存症予防教育の画策(2009～2011年度)	基 盤 研 究 C
藤 田 尚	韓国出土古人骨の形質人類学的研究(2009～2011年度)	基 盤 研 究 C
大 久 保 明 子	子どもを亡くした遺族のグリーフワークを支える社会的ネットワークに関する研究(2009～2011年度)	基 盤 研 究 C
粟 生 田 友 子	入院中の高齢者のせん妄発症にかかわる環境因子のリスクコントロール(2009～2011年度)	基 盤 研 究 C
高 島 葉 子	助産事故を経験した助産契約当事者間の信頼関係形成過程に関する質的研究(2010～2012年度)	基 盤 研 究 C
原 等 子	認知症の人の口腔機能に関連した苦痛とその緩和に関する研究(2010～2012年度)	基 盤 研 究 C
岡 村 典 子	中堅看護師の就業継続に向け管理者に必要とされる支援に関する研究(2009～2012年度)	若 手 研 究 B



新潟県立看護大学  
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地  
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815  
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編 集  
後 記

すっかり初夏の装いとなった、新緑がまぶしいこの季節にポルティコ19号を発行することができました。4月に大学に赴任してから、初めてのポルティコ担当でしたが、いかがだったでしょうか。学生の皆さんも、それぞれが新たな課題や希望を持ち、積極的に伸び伸びと学生生活をスタートしている姿がみられ、私も日々励まされております。これからも、より大学や学生の皆さんの姿を伝えられるよう記事づくりに努めたいと思っています。

入試・広報委員：渡 邊 千 春

<http://www.niigata-cn.ac.jp>

発行日:2011年6月20日



古紙配合率70%、  
白色度70%の再生紙を  
使用しています。